

# 徳島市産業振興ビジョン概要

## 策定背景

- 人口減少（生産年齢人口の減少） ○従業者数の減少
- 事業所数の減少 ○中小企業、中小・零細企業の割合の高さ

市場の縮小

産業の活力減少

産業基盤の衰退

## 市の現状(内部要因)

### Strength(強み)

- ・需要拡大とともに発展するサービス産業の存在（医療、福祉等）
- ・独自の技術や商品を有するニッチトップ企業の存在
- ・近畿圏（京阪神）への地理的優位性
- ・豊富な農林水産資源
- ・高水準な情報通信インフラ
- ・観光資源となる可能性を秘めた豊かな自然（眉山、吉野川等）、歴史・文化（四国八十八ヶ所霊場、阿波おどり、お接待等）の存在
- ・中心市街地の機能集積

### Weakness(弱み)

- ・製造業等における事業所数、従業者数の減少
- ・今後全国平均を上回る速度での人口、生産年齢人口の減少、高齢化
- ・化学工業以外にコアとなる産業がない
- ・中心市街地の商業空洞化 ・卸売業の低迷
- ・経営資源が限られた中小・零細企業が大半
- ・伝統産業、農林水産業の低迷 ・滞留型の観光資源の乏しさ
- ・徳島の認知度の低さ、ブランド力の弱さ
- ・企業誘致の用地不足

## 社会経済動向(外部要因)

### Opportunity(機会)

- ・新興国の経済成長による市場拡大
- ・就業意欲のある高齢者、女性の存在
- ・デフレ脱却、経済成長に向けた国の施策
- ・消費者の食に対する安全・安心志向、健康志向の高まり
- ・情報通信技術（ICT）の普及、新たな活用の可能性
- ・外国人観光客増加の期待
- ・医療・福祉・環境分野等における市場拡大

### Threat(脅威)

- ・日本経済の低迷（人口減少による国内市場の縮小及び雇用、生産年齢人口の減少による生産力の低下、少子高齢化の進行による社会保障負担の増加）
- ・グローバル化による企業間競争の激化、国内産業の空洞化
- ・大都市圏への人口・資本等の集中
- ・エネルギー供給、コストの不安
- ・貿易自由化による農産物等への打撃
- ・大規模災害発生への懸念

# 徳島市産業振興ビジョン

※計画期間 10年  
(5年で施策内容等を見直し)

## 産業振興の将来像

### 新たな挑戦を地域で支える体制の構築

経営革新や事業拡大に取り組む事業者を地域が一体となって支援する地域社会の構築

### 地域経済循環による自立力の形成

域内における取引の活発化により、域内循環を高め、自立的な地域経済を構築

### 産業振興を支える人材育成・連携強化

持続的な産業発展を牽引できる、より高度な人材を育成。企業、学術研究機関、行政等との連携強化

## 産業振興に向けた戦略

### 戦略概念図



### 産業振興における本市の役割

#### 「事業活動のサポート役」「市内産業のコーディネーター」

- 国・県等との役割分担を踏まえた上で、
- ① 地域産業の特性に応じた事業の重点化を行う。
  - ② 国・県等の事業と一体化し、効率的・効果的な事業の展開を図る。
  - ③ 国・県等の事業の隙間を見つけ、事業化に繋がるよう、きめ細かい支援を行う。
  - ④ 国・県等の事業に上乘せし、より大きな効果を生み出す。

### 戦略① 域外所得の増加を目指した産業の育成・創出

- 製造業における成長産業の創出
- 新たな域外市場の開拓
- 高付加価値な徳島ブランドの創出・地域プロモーションの推進
- 観光・コンベンションの魅力向上

### 戦略② 域内での経済循環の促進

- 魅力的な商業の形成
- 農林水産業と他産業の連携による6次産業化
- 産業への地域資源の活用拡大
- 地産地消の拡大
- 社会的な課題の解決に繋がるビジネスの創出・育成
- 産業間の連携促進

### 戦略③ 活発な経済活動と安定的な経済基盤づくり

- 創業等の促進や企業誘致による産業の集積
- 企業の新たなビジネスへの取り組みの拡大
- 重点産業やイノベーションを支える人材の育成
- 経営の安定化と経営基盤強化
- 地域産業への理解と産業支援の機運の醸成

戦略③  
活発な経済活動と安定的な経済基盤づくり